

「田頭竹の子舞」について

この民俗芸能は、昭和60年に旧西根町の無形民俗文化財に指定され、現在、八幡平市芸術祭や田頭地区のまつりなどで披露され、市民に親しまれています。

もともとは、江戸時代、南部公のお抱え芸能集団「南部七軒丁」の演目の流れをくむものですが、大正末期に盛岡の行商人が田頭地区に伝え、その形が現在に引き継がれているものです。

昭和の中期、一時途絶えていたものを、「田頭小学校ふるさとまつり」において復活し、以後、八幡平市を代表する郷土芸能の一つに育て上げられました。

この芸能は、おめでたい席では、「はやし舞い」とも言われ、にぎやかで軽快な曲調です。踊りの内容は、竹の枝に止まっている大勢の雀が、地面から生まれ出る筍を見つけて、おめでたい文句とともに、「ミッサイナ（見なさいな）」とはやし合っている様子を表したものです。

舞台では主に、伝統的な扇子を持った組踊りと、新作の箆を持った輪踊りを演じます。

田頭竹の子舞保存会 会長 佐々木一夫

《 Youtube 動画はこちらから 》

<https://www.youtube.com/watch?v=zyLw6wj24qk>